

LL _____
LLLLL■L■L■L■L■L■L■L■L■L■L■L■L ■ 産学連携学会メールニュース
LLLLL■L■L■L■L■L■L■L■L■L■L■L ■ _____
L■LLL■L■L■L■L■L■L■L■L■L■L■L■L J-SIP Mail
L■LLL■L■L■L■L■L■L■L■L■L■L■L■L _____
L■L■L■L■L■L■L■L■L■L■L■L■L ■ 発行：産学連携学会（編集WG）
LL 第1221号 <2023.1.31>

[[[[ヘッドライン]]]]

【東北・北関東支部】研究会

「産学官連携における仕組みの在り方を考える」開催のお知らせ

産学連携学会 東北・北関東支部 研究会

“産学官連携における仕組みの在り方を考える”を開催いたします。

ぜひ、ご参加ください。

時期 令和5年3月24日（金） 13時半～17時15分

場所 群馬大学 桐生キャンパス 研究産学連携推進機構 B棟 3F セミナー室
(群馬県桐生市天神町一丁目5-1)

http://www.gunma-u.ac.jp/campus_map/g3058

をご参照ください。

主催 NPO法人 産学連携学会 東北北関東支部

共催 群馬大学（予定）

参加費 無料

申込先 <https://www.kokuchpro.com/event/cc9a0c8d22548b1acff767e466f57cd/>

問い合わせ先 群馬大学 伊藤正実（産学連携学会東北・北関東支部幹事）

21mito@gunma-u.ac.jp

【趣旨】

ここで言う産学連携システムは、大学とそれ以外のセクターとの連携により、大学のリソースを地域の振興等といった価値をもたらすことを意図しておこなう仕組みであり、イニシャティブを取る主体となるセクターは特に問うものではない、しかしながら、システムと言う以上、持続性がある程度担保された取組がその対象となるべきである。その在り方そのものをどうとらえるべきものなのか、あるいは、その仕組みの構築の方法論等は未だ確立していない。

しかしながら、ある程度継続性が担保された事例については、関連のステーク

ホルダーの間で継続することの合意がなされているものであるから、こうした事例に関する理解を深める議論をすることは有意義であると考えます。

【プログラム】

進行 群馬大学研究産学連携推進機構 伊藤正実

主催者 挨拶 (13:30~13:35)

産学連携学会東北北関東支部 支部代表 今井潤 (岩手大学)

講演

- 1 桐生市における産官学民協働によるスローモビリティの地域実装の取り組みについて

講師 群馬大学 理工学府 教授 天谷賢児

(13:35~14:05 講演 14:05~14:35 質疑応答)

群馬大学と地域企業、桐生市で開発したスローモビリティ (低速電動バス) と、その地域への導入に関して話題提供をさせていただきます。

特に、地域の課題である高齢地域の「暮らしの足」としての活用のために、地域住民や行政、社会福祉協議会、運行事業者など、様々なステークホルダーが協力して地域実装を進める必要があり、その中で見えてきた課題や地域での合意形成の重要性などについて報告させていただきます。

<https://crants.opric.gunma-u.ac.jp/project/slowmobility/>

- 2 北関東産官学研究会の設立の経緯とこれまでの取組について

講師 北関東産官学研究会 会長 根津喜久雄

(14:35~15:05 講演 15:05~15:35 質疑応答)

NPO 法人北関東産官学研究会は、桐生市の支援を受けて平成 13 年に設立され、会員制度を基盤にして、共同研究に対する支援や各種の研究会や講演会の開催、及びアドバイザーの派遣事業等、産学官連携を促進する為の多彩な活動をおこなっている。

本講演では、その設立の経緯と今までの流れ及び将来の展望について述べてみたい。

<http://www.hikalo.jp/>

休憩 15:35~15:45

- 3 「大学の立ち位置」をフル活用した持続可能な産学官金連携の事例紹介

講師 金沢大学 先端科学・社会共創推進機構 特任助教 平子 紘平

(15:45~16:15 講演 16:15~16:45 質疑応答)

今回の研究会テーマである「自立的な取組が継続的になされ、持続性がある程度担保された取組」としての「地域連携システム」について、金沢大学での取り組みを2つの事例を交えて紹介します。

1つ目は、石川県羽咋市との連携事例で、大学の「中立的な立場」と「研究活動」という切り口を活かした、産と官を繋ぐ地域共創研究。

2つめは、協同組合全国企業振興センター・北國フィナンシャルホールディングスと大学の三者連携で取り組んでいる、地域企業の課題解決に都市部の中核人材を呼び込み、さらに定着を図る事業です。これらの事業は、参画企業からの予算支出で複数年に渡って支えられており、また、学際的な教育、異分野融合による先進的な研究や、多数の競争的資金の獲得にも繋がっています。これらの事例紹介から、研究会テーマに資する論点を提供できればと考えています。

羽咋市での事例①：見守りネットワーク

<https://www.chunichi.co.jp/article/427999>

羽咋市での事例②：庁内データ連結

<https://www.dynatrek.co.jp/news/news20210913.html>

羽咋市での事例③：走行履歴からの交通安全

<https://www.chunichi.co.jp/article/403249>

共創型企业・人材展開プログラム

https://ikoc.net/kyoso_kanazawa/

全体討論（16：45～17：15）

当メールニュースではイベントのお知らせや公募情報等、
産学連携に関する情報をお流しいたします。
会員の皆様への情報の配信をご希望の方は、
産学連携学会事務局（j-sangaku@j-sip.org）までご連絡ください。
バックナンバー：http://www.j-sip.org/mail_news.php